

令和 5 年度第 3 回北栄町教育行政評価委員会

日 時 令和 6 年 3 月 26 日 午後 7 時～9 時

場 所 大栄農村環境改善センター 会議室 4

- 1 開 会
- 2 あいさつ

3 協議事項

(1) 令和 5 年度評価対象 10 事業の最終評価について

(評価基準) 4 段階

- A：目標を超えて達成
- B：ほぼ目標どおり
- C：取り組んでいるが達成が不十分
- D：取組み・達成とも不十分

(2) その他

4 その他

- ・ 令和 6 年度の委員委嘱について
- ・ 報酬支払： 4 月 19 日（金）、ご指定の登録口座に入金

5 閉 会

令和5年度 北栄町教育行政評価（最終評価）

外部評価

A：目標を超えて達成、B：ほぼ目標どおり、C：取り組んでいるが達成が不十分、D：取り組み・達成とも不十分

整理 番号	事業名	事業 進捗	内 部 評 価		外 部 評 価 委 員 評 価	
			評価	理 由	評価	コメント
009	ファミリー・サポート・センター事業	完了	B	提供会員が増えた。依頼に対して全て成立し、十分なサービスの提供ができた。	A	・中間（1/30）以降変更なし。 ・チラシ、顔写真入りリストの作成など事業の利活用の工夫に努め、実績も上がっている。今後も、創意工夫をされ安心して育児のできる環境整備に努めていただきたい。 ・提供会員の増加、ニーズへの対応の整備が出来ているため。
013	魅力ある園づくり推進事業	完了	B	事業を実施した3園の活性化に繋げることができた。	B	・内容はどうやって決めているのか。？ ・各園の独自の園づくりを目指すための事業であることは理解できるが、課題にあるように町から町施設への補助事業は財政担当課で行うべきか。 ・事業の評価としては、各園工夫して魅力ある園づくり事業を実施しているが、効果測定の指標が短期的には困難。 ・園のそれぞれに必要なものの購入、円滑に利用できていると判断。
023	教育力向上事業（学力検査の実施）	完了	B	計画どおりに実施できた。	B	・事業は計画通り実施され、結果も学力生活状況の把握により指導のポイントが明確となり事業改善につながったとあるが、事業の目標である学力向上、定着にどうつながったか、数値的なデータが必要。 ・小学校から中学校へ個人の分析データは追跡して活用されているか。 ・定期テストだけでは、分析が難しい。 ・分析が細かくされているので、1人1人の課題がわかりやすい。
026	高校生等通学費助成事業	完了	A	県内幅広い学校から多くの申請をいただくことができ、より多くの世帯の経済的負担軽減を図ることができた。	A	・年々利用実績が増加し、利用世帯の経済的負担の軽減に寄与出来ている。今後も継続し、周知に努め利活用の増進に努めていただきたい。 ・申請者数も多いこと、ニーズがあること。 ・物価高騰による通学の助成事業の必要性。
038	幼児通級指導教室設置事業	完了	B	目標を達成することができた。	A	・保護者の満足度。 ・利用者へのアンケートで、大変満足評価が100%であることは評価できる。保護者の理解事業に対する満足度が高いことは良い育児支援となっていると思う。さらに、加配教諭研修も計画を上回り園児個々の特性に合わせた支援が期待できる。 ・加配保育教諭の資質向上につながることで、1人1人の特性を理解してかわってもらえることが大切で、その目標を達成できている。
042	教育力向上事業（イングリッシュスクール、英検助成）	完了	B	ほぼ目標どおり実施できた。	B	・延べ人数/実人数の数字の取扱い。 ・児童生徒へ英検受験を促す努力を期待する。受験料補助については合格者については全額免除でも良いと思う。

整理 番号	事 業 名	事業 進捗	内 部 評 価		外 部 評 価 委 員 評 価	
			評価	理 由	評価	コメント
						・面接試験対策は、出来れば全試験の前に行ってほしい。 ・目的である英検申請者数の増加。 ・小・中の連携を通して英語の学ぶ機会と引き続きこの事業をもうけてほしい。
053	隣保館運営事業	完了	B	数値目標はおおむね達成。	B	・評価指数について、コロナ前の数値に対してどう変動しているか。 ・ほくほくプラザが、人権の発信拠点であり、地域の交流拠点としての施設であることを町民に対し施設の存在意義を改めて発信に努めてほしい。 ・コロナの緩和により学校との連携。 ・わかりやすい人権研修の参加者の増は、評価できる。
063	ほくえい未来ラボ	完了	B	目標どおり実施。	B	・参加住民が町の行政課題について研究提案する町民が町づくりへの参画をする育成事業だが、参加研究員の町民の比率を高めることが必要では。 ・公民館で取り組む事業であれば。「生涯学習に関わるもの」をメインテーマとして取り組んだ方が研究員も参加しやすいと思う。例えば、各種団体で課題となっている高齢による会員の減少対策など、気軽に参加できることがまちづくりにかかわる町民の育成につながると思う。 ・行政の方に頼るだけではない住民自身のすみやすい地域づくりの意識をこの事業だけに託すのではなく、他とコラボの必要性がある。
070	すいか・ながいも健康マラソン大会事業	完了	B	大会参加者、ランネット得点ともに目標どおり達成した。	B	
080	図書館魅力化事業	完了	B	おおむね目標どおり達成。	A	・数値的に OK。 ・各種行事に積極的に取り組み来館への努力は感じる。 ・観光客が、図書館前のブロンズ像を見に立ち寄る姿をよく見受けるが、ふるさと館や観光協会と連携し、そのような人を館内に導入し、北栄町の魅力発信を行う仕組みはどうか。 ・事業的には、各種行事の指標以上の実績は評価できる。 ・図書館の魅力の発信、地域の予防事業などでも外部に出て「音読教室」をされていたりと、図書館だけにとどまらずに外部発信をされている。